

まちの交通井戸端会議 実施報告

令和8年3月16日（月）

大島町地域公共交通活性化協議会



第1回まちの交通井戸端会議の開催概要



それぞれの地域の特徴（課題・強み）を把握し、今後の取組の検討に向けた方向性を整理することを目的に第1回まちの交通井戸端会議を開催した。

■背景

- 交通事業者や関係者団体、住民と協力し、町内の移動に関する課題解決に向けた取組を進めてきた中で、路線バスや乗合タクシー等の運行ルートまでの移動を支える方策の検討が必要であると考えている。
- 町内では地域ごとに抱えている課題が異なり、移動手段の確保策も様々なバリエーションが想定される。

■目的

- 町内の各地区の交通に対する問題意識を喚起
- 住民をはじめとした関係者の連携構築
- 住民とともに課題解決策の検討に取り組み、まちづくり協議会等の住民主体で取組を推進する体制の構築

■開催概要

	北部地区	中部地区	南部地区
日時	2025年12月20日（土） 13:30～15:00	2025年12月20日（土） 10:00～11:30	2025年12月19日（金） 18:30～20:00
場所	岡田コミュニティセンター	開発総合センター大会議室	差木地公民館
参加者	老人会、婦人会、民生委員等10名	老人会、婦人会、民生委員等5名	老人会、婦人会、民生委員等10名
会場の様子			

■会議の流れ

情報提供

地域の課題

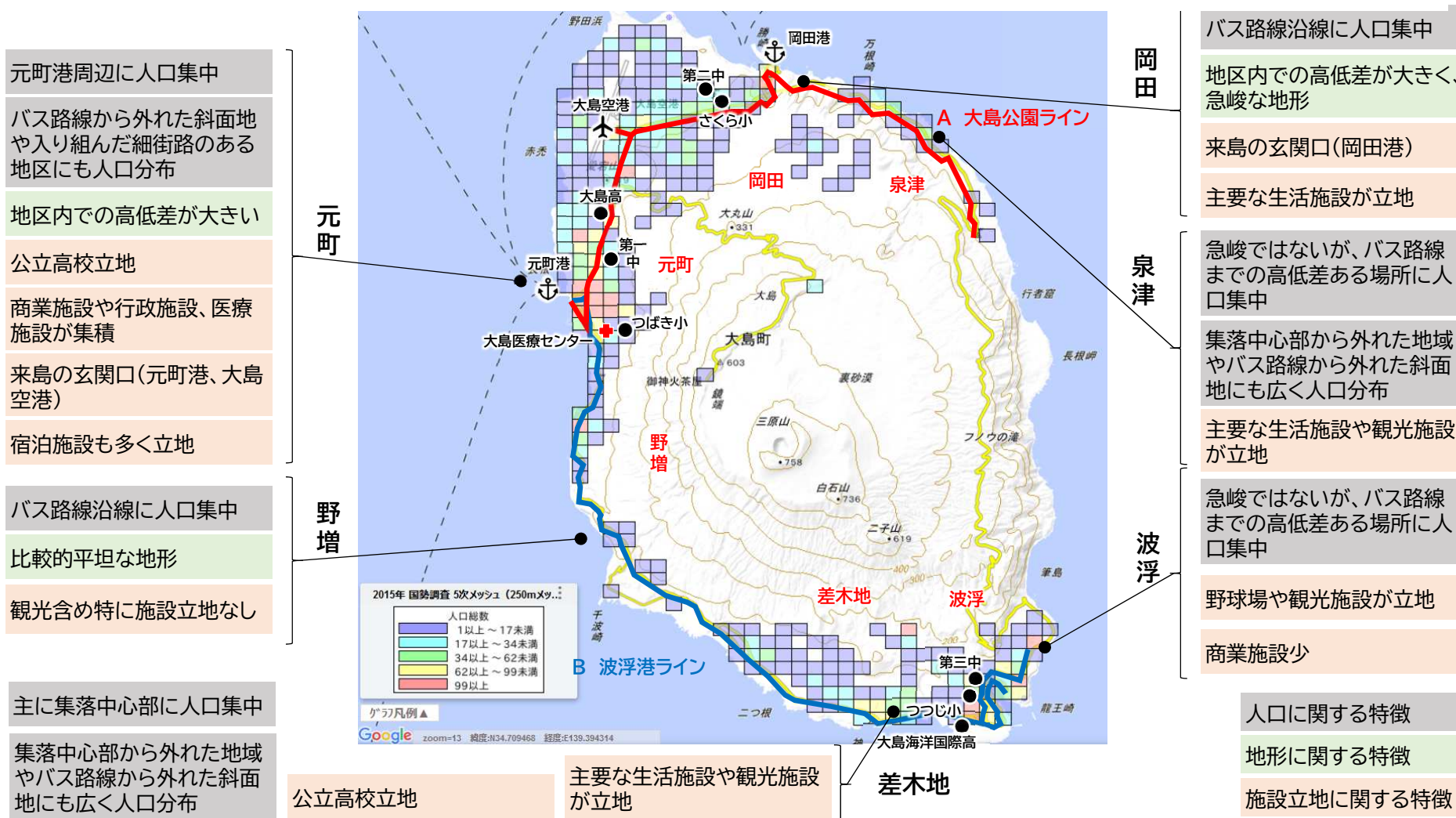
地域活動や地域の強み

まとめ

大島町 旧6村別の移動に関する特徴

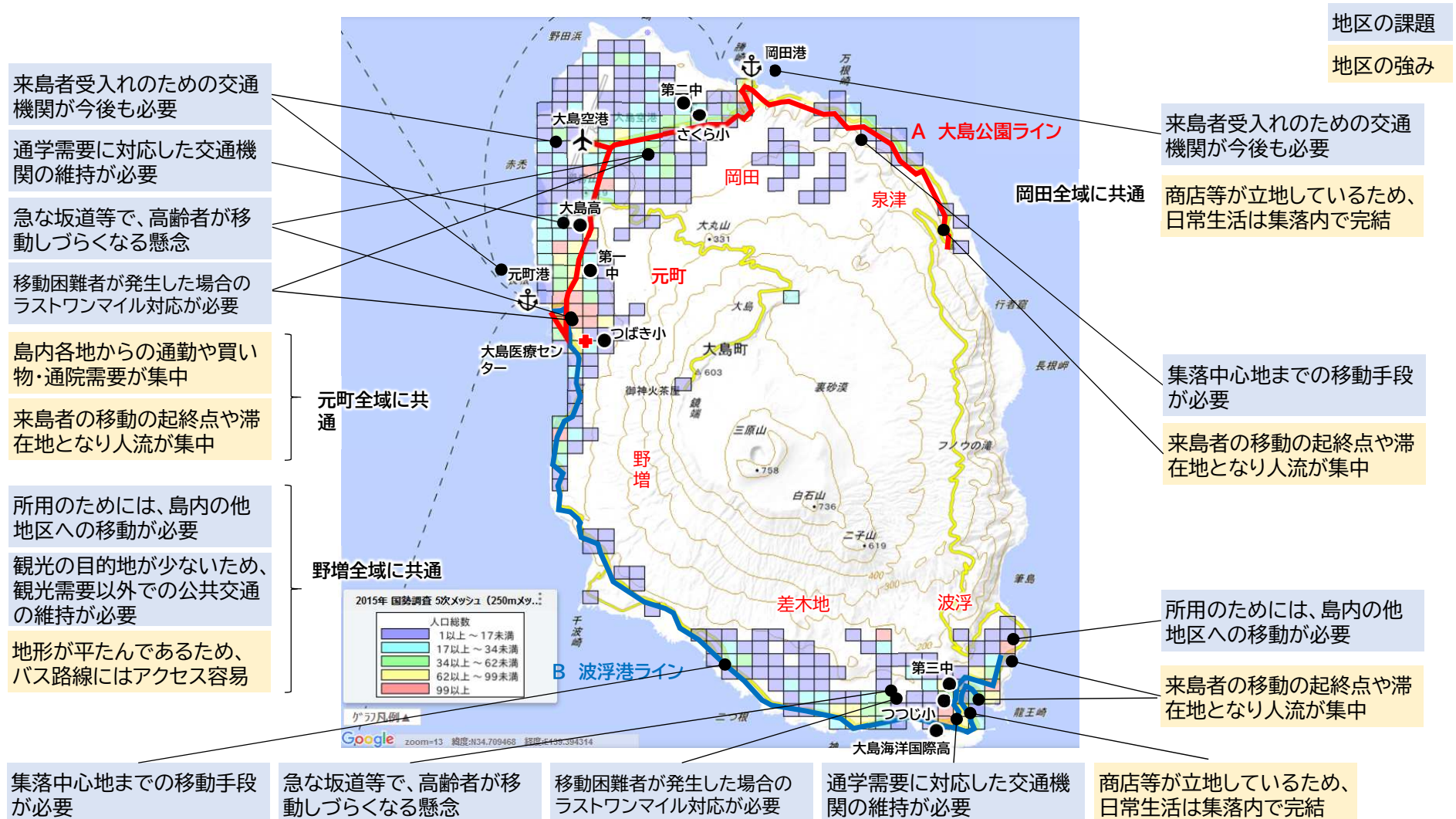


令和5年度の計画策定時には、町内を俯瞰して、旧6村別に移動に関する特徴を下記のように整理した。



大島町 旧6村別の移動に関する課題・強み

令和5年度には、移動の特徴をもとに、旧6村別の移動に関する課題や強みを下記のように整理した。この整理結果を踏まえて、「大島町地域公共交通計画」を策定し、5年間で実施する事業を位置付けた。



第1回井戸端会議の開催結果



これまでに把握した各地区の交通課題のほかに、新たな課題を把握することができた。また、交通のみに関する課題（■）だけでなく、その他の分野と関連する課題が挙げられた。このことから、**他分野と連携して地域の課題解決に向けた検討を進めていく必要がある。**

■ 地区ごとの課題

	第1回まちの交通井戸端会議で挙げた課題	その他これまでに把握している課題
北部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 集落中心地までの移動手段が必要 ■ 生活保護を受けた人の移動手段の確保が必要★ ■ 移動できないと人に会えなくなる心配★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 移動困難者が発生した場合のラストワンマイル対応が必要 ■ 急な坂道等で、高齢者が移動しづらくなる懸念 ■ 来島者受入れのための交通機関が今後も必要
中部	<ul style="list-style-type: none"> ■ 所用のためには、島内の他地区への移動が必要 ■ 現在は車で生活できているが、免許返納後が心配★ ■ 人口減少により、地域内の店舗が減少★ ■ 免許返納後も利便性を維持するには相応の負担が必要★ ■ 同乗による共助は事故時の責任の考え方の整理が必要★ ■ 共助にはクルマ移動が必要★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 急な坂道等で、高齢者が移動しづらくなる懸念 ■ 通学需要に対応した交通機関の維持が必要 ■ 来島者受入れのための交通機関が今後も必要 ■ 移動困難者が発生した場合のラストワンマイル対応が必要 ■ 観光の目的地が少ないため、観光需要以外での公共交通の維持が必要
南部	<ul style="list-style-type: none"> ■ フリー乗降・地域内循環サービスのニーズ★ ■ バス停までの距離・坂道・暗さへの対応が必要★ ■ 横断歩道や歩道環境の改善が必要★ ■ 独居高齢者・年金生活者も使いやすい移動サービス(特に料金)が必要★ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 移動困難者が発生した場合のラストワンマイル対応が必要 ■ 所用のためには、島内の他地区への移動が必要 ■ 集落中心地までの移動手段が必要 ■ 通学需要に対応した交通機関の維持が必要 ■ 急な坂道等で、高齢者が移動しづらくなる懸念



課題の分類: ■ 交通(移動手段・公共交通) ■ 道路環境・歩行環境 ■ 生活利便性・立地構造 ■ 経済・制度 ■ 共助・意識・心理的ハードル
 今回新たに把握した地域の課題: ★

(参考) 北部地区で拳がった意見



主な意見

○送迎に関する意見

「中学生以上のスクールバスがないため、雨の日は車送迎が多くなる。」

○出帆港の違いによる移動に関する意見

「日によって出帆港が違う。行きと帰りで港が違くと、港間移動のためのバス待ち時間が長い。」

「船に乗って出かける際、港に車を置いておく場所が足りない。」

○施設立地に関する意見

「ATMで現金をおろすためには、元町まで行く必要がある。昔は北の山のJAにATMがあったが、なくなって不便になった。」

○クルマ社会の生活への影響に関する意見

「『自家用車を手放せない』という理由で生活保護をためらっている人がいる。」

○交流の場への移動に関する意見

「免許返納したら、どうやって人に会いに行けばいいかわからない。人間関係にも影響しそうである。」

課題

■ 集落中心地までの移動手段が必要

■ 生活保護を受けた人の移動手段の確保が必要★

■ 移動できないと人に会えなくなる心配★

(参考) 中部地区で拳がった意見



主な意見

○免許返納後の移動不安に関する意見

「今は車で移動しているし、バス停も近いので課題はない。」
「自動車がなければ今と同じような移動はできなそう。」
「いつ免許返納するかが一番の悩みである。」

○交流の場への移動に関する意見

「買い物や通院は、移動サービスがあったりするが、遊びに行くための移動手段の確保も大事である。」
「高齢者は、ずっと家にはいては老いていくばかり。」

○施設立地に関する意見

「野増は昔、人がたくさん暮らしていて10件ぐらいお店が並んでいた。今はなくなって買い物や飲食は元町まで行っている。」
「施設まで歩いていけばいいという生易しいものではない。」

○利便性の維持に関する意見

「自家用車で自由に移動できなくなっても同じ利便性を求めるなら、相応の負担を覚悟しなければならない。」

○共助による移動に関する意見

「自分が運転できなくなると、仲間を助けることもできなくなる。」

○共助による移動に関する意見

「同乗をすることはいいが、事故をしないか、その時に誰が責任を取るかが懸念される。」

課題

■現在は車で生活できているが、免許返納後が心配★

■所用のためには、島内の他地区への移動が必要

■所用のためには、島内の他地区への移動が必要

■免許返納後も利便性を維持するには相応の負担が必要★

■同乗による共助は事故時の責任の考え方の整理が必要★

■共助にはクルマ移動が必要★

(参考) 南部地区で拳がった意見



主な意見

○従前の交通サービスに関する意見

「以前フリー乗降があった時は、歩いてすぐの都道から乗ることができた。」

「バス停まで行くことが大変なうえに、バス停で長時間待たなければいけない。地域循環バスがあるといい。」

○バス停までの移動に関する意見

「バスが町道から都道を通るルートになり、バス停が住宅地でない。」

「家から停留所まで上り坂で道路環境もよくない。」

「17時台のバスが最終だが、夜は街灯が少なく真っ暗。」

○道路に関する意見

「クルマ優先で横断歩道に人が立っていても止まってくれない。」

「小学生が横断歩道で待っていたので止まって横断を待っていたら、ちょうど後続車が追い越してきてあぶなかった。」

○使いやすい移動サービスに関する意見

「社協の移動サービスにはお金がかかる。年金生活者は利用しづらいと思う。」

課題

■フリー乗降・地域内循環サービスのニーズ★

■バス停までの距離・坂道・暗さへの対応が必要★

■安心できる歩行環境の改善が必要★

■独居高齢者・年金生活者も使いやすい移動サービス(特に料金)が必要★